

研修報告書No.13

所 属：東邦大学医療センター佐倉病院 研修医
研修先：本山町立国保嶺北中央病院
高知市土佐山へき地診療所
大川村国保小松診療所
本山町立汗見川へき地診療所

私は平成30年1月の約1か月間、高知県にある嶺北中央病院、土佐山へき地診療所、大川村診療所、汗見川診療所等で研修させていただきました。私の出身地は千葉県で、出身大学は都内にあったため地域医療の研修先を関東以外で考えていたところ、高知県で研修経験のある上級医から高知県で有意義な研修を行ったという話をうかがい、高知県での地域医療研修を行うことを今回希望しました。

今回の主な研修先である嶺北中央病院は嶺北地域では唯一の一般病床をもつ公立病院で、主な診療圏を本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北4町村としており、約13,000人の診療圏人口を抱えています。嶺北中央病院の常勤医師は内科5人と外科1人で一般病床と療養病床を合わせて計111床の病棟を有しています。

その高齢化の進む地域での研修で慢性期の患者さんを診る機会が得られたことは、ふだん千葉県と都内の急性期の患者さんを診る機会が多い大学病院で初期研修を行っている私にとって、大変貴重な経験であったと考えています。大学病院では急性期を過ぎた患者さんを慢性期の病床に転院させなければならないことが多く、最後まで患者さんを診ることができないこともあります。嶺北中央病院ではそのような慢性期の患者さんを病棟や外来で多く診ることができました。嶺北中央病院に救急搬送された患者さんの担当医をさせて頂くこともできました。搬送される患者さんは慢性期で高齢ということが多く、食事摂取不良が原因での入院も多いと感じ、地域の病院は大学病院とは入院させる基準も若干変えていかなければならないと考えました。また急性期の患者さんが搬送された際は高知市内の大学病院等に転送することもあり、各々の病院や診療所の役割の違いを強く感じました。今回の研修では、慢性期の高齢者に寄り添って患者さんやその家族の社会的背景などにも視野を広げ、求められている治療は何なのかについて深く考え、診療を行うことができました。

へき地診療所での研修ではへき地医療の現状を知り、限られた医療資源で患者さんを診療する術を学ぶことができました。まずは患者さんの送迎バスに同行し、車内で患者さんとお話させて頂く時間があり、独特の方言に苦戦する場面もありましたがへき地の環境を知ることができました。また、医療資源が限られた中で適確に効率良く診療する経験を積むことができたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。へき地診療所での研修

できる日限られていたため、患者さんの経過を長くみられなかったことは残念でしたが、今後医学知識と技術を高めてから私もへき地医療に何らかの形で協力したいと考えました。

話は変わって休日は四国を巡ることもでき、公私ともに充実した研修を送ることが出来ました。初めての土地での研修で期待とともに不安も少なからずありましたが、病院長をはじめとして医師、医療スタッフの方に最後まで丁寧にご指導を頂き、また高知医療再生機構の職員の方に高知県での研修を行うためのサポートも頂き、大変有意義な研修を行うことができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。